



東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 2 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 29 年 8 月 25 日 (金) 10:00~12:00
2. 開催場所 スタндарт会議室 虎ノ門 SQUARE 店
東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 階

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) 東京湾での海水浴復活の方策検討 P T 政策提案について
- (2) 平成 29 年度フォーラム総会議事次第 (案) について

《報告事項》

- (1) 平成 29 年度 P T 活動報告
- (2) P T 長会議開催について
- (3) CSR-NPO 未来交流会 (マッチング交流会) 報告
- (4) 企業・行政等施設見学会 (案)
- (5) 企画運営委員会委員の任期について
- (6) その他

4. 出席者 (敬称略)

來生委員長、古川委員、井上委員、岡田委員、中井委員、星委員、笛木委員、工藤委員、田久保委員、竹口委員、芝原委員、三浦委員、岡本委員、中崎委員、山本委員、富樫委員、佐藤委員、中岡代理、小野委員、稲津代理、田代理、土井代理、岩田代理、佐久間代理、小山代理、笠原委員、細川(事務局) 27 名出席

5. 議事メモ

5-1 開会

■事務局確認事項

- ・配布資料の確認
- ・出欠確認
- ・新委員紹介: 三浦委員、中崎委員、山本委員、富樫委員、笠原委員

□開会挨拶(委員長)

今回は「東京湾での海水浴復活の方策検討 P T 政策提案」もあり、どうぞよろしくお願いたします。

5-2 議事

《審議事項》



(1) 東京湾での海水浴復活の方策検討PT政策提案について

【決定事項】

事務局との協議、PT 長会議でのサポートによる修正、再整理の上、企画運営委員会意見を反映して再提出

(事務局代理説明)

資料1 提案書、参考資料 1、2 説明

- ・PT 長欠席のため、事務局から資料1にもとづき、提出された政策提案書の読み上げ。
- ・次に、提出された政策提案書の取り扱い方として、政策提案審議の手順内容を参考資料 1、2 で説明。いままでに、政策提案を 3 回行ってきた検討結果を手順として整理したもの。提案時の記載事項やスケジュールなどの概要を示す。

【審議経過】

質問、提案意見など

- ・水産庁では、江戸前 PT に参加しているが、提案側にも参加し、提案の受け手側(官)という立場にもなる。立場的にはどう理解するのか？

〈事務局〉

- ・官と民が一緒に力、知恵を合わせて提案内容を検討することが大事。PT 活動の中でも議論を行い検討していくことで、実現可能で、より良い政策提案ができる。フォーラムは、官が責任を持つ仕組みとはなっていない。今まで三つの提案を行い、提案の取り扱いは官の判断するところとなっている。
- 特定の PT が個別に提案をするわけではない。フォーラムとしての提案となる。それぞれのプロジェクトチームに参加している官側の参加者は、ある種のアドバイザーの役割もあり、政策を受け取る観点から参加して、実現可能性を高める助言などを行う。PT としては、民からの意見など幅広いメンバーで議論するプロセスを経る。そしてフォーラムが持つ官民連携のメリット、特徴を活かして提案を形づくっていく・合意形成を進めていくこととしたい。
- ・参考資料の1を見ると提案書には具体性が求められている。しかし、この原案は具体的「政策提案」ではなく、一般的「要望」になっているように思える。この海水浴 PT には官側メンバーは入っているのか？

〈事務局〉 東京都などがはいつている。

- ・もし海水浴場の開設を提案するなら、「海水浴場開設とは何か」、「海水浴場は誰が開設するのか」を記載する必要がある。また、「東京湾内湾の実情はどうなっているのか」(湾内の事情・地域区分など)例示的に示さないと解りづらい。
- ・政策提案とするなら「開設されている公園」、「海水浴場体験の行われている浜辺」、「認められていない浜辺」など言葉の違いを実態とあわせて整理して示す必要がある。
- ・解決すべきは水質の問題なのか、それとも砂浜の問題なのか？政策提案書にするためには、利用



可能性のある地域においては、どういう条件が必要なのか、どういう点に留意すべきかなど、具体的な提示が必要になる。

- 東京湾内湾を想定した提案書なら、合併処理の問題を、10 年のスパンで一気に直すことは現実的には難しい。海水浴場としては、大腸菌類の問題が常にあるので、早期に把握しながら利用できるのは利用するなど、現実性や大きな道筋の中の第一歩の踏み出し方の提案などについての具体的な提示が欲しい。
- 「運営経費の確保」という提案では、「自治体直営で行いなさい」、あるいは「民間業事業者にやらせなさい」、それとも「NPO で行うのでお金がかかる」と言うのか？どれを提案しているのか不明。
- 自分たちの実践例と各地の自治体に広めていく一般的な政策論をどのようにつなげていくのか、提案の中で道筋を示してほしい。
- 今の意見に賛同する。東京湾の周辺は合流式下水道が多い。背後地や前面水域など、どういう場を想定しているのかわからないと水質の点で検討するのが困難。
- 湾岸の各地区の特性や事情によっても海水浴場の見通しが違う。より具体的な提案であれば、技術的検討の仕方や可能性がわかりやすくなる。
- 制度論との関連付けとどこでやるのかの想定について、提案のより具体化が求められる。
- 一次提案という点でヒントがあるのではないかな？
- 一つの PT で全部を解決して、提案書を準備できるのか？本当に可能だろうか危惧している。
- 東京湾再生行動計画(第二期)の中では、計画推進のための必要事項として「フォーラムから出てきた提案は、それを踏まえて施策に反映させ推進していく」ことになっている。
- 海水浴場の大切さ、解決しなければならない問題をまず共有してもらい、PT の中で検討すれば指摘が明確になり解決できるのか？それとも再生推進会議、官側の方で、積極的な関与をもらって、官側の調査として詰めていく方策が良いのか？一緒に考えるという方策もある。
- より具体化する検討方向もあるが、共有した問題点を共同で考えていきませんかという方向もある、海水浴の大切さを指摘するといった一つ引いたようなレベルで第 1 弾を出して、次を考える方向性もあるのではないかなと思う。
- 上記意見は、第一球投げて、官側でも考えてもらう意見と理解した。
- 今後 PT 長会議もあり事務局主導で検討調整を行い、それに実践活動している PT の経験値を絡めて、具体性をもたせて、その先は官側で検討してくれないかという方向が良いのではないかな。抽象的な提案では、受け手の行政側としては、「はいわかりました」で終わる可能性が高い。上記の意見も考慮し、具体的にという意見も踏まえ、両者の中間的な提案が良い。
- このままの提案ではなく、具体性を持たせることが必要と考える。
- 具体的な例を言うと、⑦で「リアルタイムの測定が困難なため・・・」とあるが、リアルタイムの測定が何故必要なのか、ということは、このままではよくわからない。ほかの海水浴場でも必要なかな？もっと掘り下げる必要がある。
- 政策提案書の⑧についても、海水浴では、「顔をつけないから海水浴可能」な場所があるのでしょうか、背景、場所など、もう少しかみ砕く必要がある。これによりさらに提案を充実させることができる。



(委員長整理)

→少し具体化の方向で整理を事務局指導でおこなってください

(2) 平成 29 年度フォーラム総会議事次第 (案) について

(事務局説明)

- ・資料 2 に基づき説明。
- ・総会会場が横浜 大栈橋ホールに変更になっている。
- ・議事内容では、政策提案が次回の企画運営委員会で承認されれば、審議議題の一つとなる。

【決定事項】

提案通り承認された

《報告事項》

(1) 平成 29 年度 P T 活動報告 (各 P T 長)

◆東京湾大感謝祭 P T 活動

【報告】(田久保委員・東京湾大感謝祭実行委員長)

資料 3-1-1、3-1-2 説明

- ・出展者数は、昨年より若干少ないが、予算総額見込み含めて、3600 万円程度となる。少なくなったのは、ふるさと納税関連の出展が抜けていることによる。コアの部分では、2 年前と比較すると 3 割増え、全体的に伸びている。
- ・江戸前の紹介が今年は本格的に実現し、釣りでは哀川翔氏の参加、下水道では東京湾ワンダーパビリオンができ、榊さんの司会によるトークショー、海上保安庁のヘリを使用した救助デモンストレーションなどの企画を予定している。
- ・実行委員会は月一度開催し、課題については、例えば、国と自治体、省庁横断検討などさまざまな点で協力し合い役割を分担して、推進出来ていて、非常にスムーズな運営となっている。

〈竹口委員〉

お礼ですが、同時開催の音楽ライブみんな集まれ 2017 の実施において、「大変協力して頂いている」という感謝の連絡を受けている。車イスなどの方も増えると予想され、会場内のケーブル等障害に気を使いますが、よろしく願います。

〈岡田委員〉

実行委員の立場から事務局から P T 出展の規模感の連絡をお願いします。8 月までに願います。

◆東京湾環境モニタリングの推進 P T 活動

【報告】(古川 P T 長)

資料 3-2-1、3-2-2 説明

- ・今年度については、東京湾環境一斉調査を実施している。8 月 2 日予定通り実施、とりまとめ中。特に今年は、生物調査に力を入れている



- ・東京湾環境マップの作製予定

◆生きもの生息場PT活動

【報告】(代理 岡田副 PT 長)

資料 3-3 説明

- ・全体の PT 会議とワーキンググループ (WG) を設置して、以下に取り組んでいる。
- ・生き物生息場づくり PT 政策提案のフォローアップ
提案内容の実現に向けた取り組みの実施を検討
- ・新たな政策提案に向けた検討他の話題提供
- ・東京湾大感謝祭の企画準備

◆指標活用PT活動

【報告】(岡田 PT 長)

資料 3-4 説明

- ・2つのWG、市民データWG、データ整理・評価WGを設置し活動している。
- ・市民データWGでは、データ収集を開始して3つのルートでお願いを行っているが、データの集まりは芳しくない状態。
- ・データ整理・評価WGはH31年度の第2回中間評価にその検討結果を反映しようと活動している。ただし、適切な評価手法を見つけるため労力手間がかかるので、もう少し検討すること
必要が出てきている。

◆江戸前ブランド育成 PT

【報告】(代理 富樫委員)

資料 3-5 説明

- ・消費者に発信するため東京湾大感謝祭 江戸前ブース出展として、魚食普及のために現時点において8つのブースを予定している。

◆東京湾の窓PT

【報告】(芝原 PT 長)

資料 3-6 説明

- ・4月と7月にPT会議開催
「東京湾・公園めぐりスタンプラリー」が本PTメンバー及び下記の施設の協力を得て開催され、東京湾にある施設など6か所をめぐり、結果として、合計8,574名が参加した。水族園の参加が集客連携に大きな影響力を持った。
- ・今後、スタンプラリーは、PTの活動として実施予定
- ・東京湾大感謝祭へは、昨年と同様に出席予定

◆東京湾浅瀬再生実験 PT

【報告】(代理 事務局)

資料 3-7 説明



- ・主旨説明
- ・先進事例や現場視察などを行っている。東京都の海上公園の利用方法や関東地方整備局「潮彩の渚」などの事例研究を実施。

(2) PT長会議開催について

【報告】（事務局）

資料 4 説明

- ・毎年 1 回 PT 長会議を開催予定
- ・今年は政策提案の経験の共有を図りたい。今までの苦労経験や受け取り側のご意見などの共有を図りたい。

(3) CSR-NPO未来交流会（マッチング交流会）報告

【報告】（事務局）

資料 5 説明

- ・7 月 20 日に開催、準備に手間をかけ NPO と企業のマッチング事例などの講演、NPO のプレゼンテーション、そして参加者同士の情報交換を実施。進行には経団連 中井様と海辺つくり研究会 菅家様の協力を頂いた。またセブン-イレブン記念財団からのノウハウの提供を受け、議論を深めることができた。
- ・特に千葉自然学校の事例は、関心を呼んだ。

(4) 企業・行政等施設見学会（案）

【報告】（事務局）

資料 6 説明

- ・毎年 1 回見学を行っている。今回の訪問先は新日鐵住金株式会社 富津にある研究所。バスを使つての午後半日の見学会を計画している。

(5) 企画運営委員会委員の任期について

【報告】（事務局）

資料 7 説明

- ・委員の任期は 2 年の規定になっている。委員の方々には引き続き委員をお願いしたい。
- ・後日個別に相談させて頂く。

(6) その他

（事務局）

第 3 回企画委員会を総会前に設定するので、日程の調整にご協力よろしく願います。

以上